

「観光交流・産業振興施設、子育て関連施設の複合施設」の導入可能性調査

(調査対象箇所:三重県いなべ市大安町大井田)

調査対象事業の概要／施設の概要

- ・児童センター跡地及びその周辺敷地(整備計画地)を「みどりのオープンスペース」として活用し、「にぎわいの森」に続く、グリーンインフラの拠点施設の整備に向けて検討を進めている。
- ・「市の玄関口」としての場所に位置して車・鉄道でのアクセスがしやすい上に、敷地内外には野外体験活動に活用しやすい空間があるほか、隣接する宇賀川では自然観察や川遊びなどのプログラムが実施できる環境であるなど、観光交流施設としての機能も期待できる。
- ・複数の機能を有する施設を一体的にみどりの中に整備することで、効率的に魅力的な空間を形成させるとともに、収益施設機能をあわせて整備することで、整備・運営費の一部を回収することで公的負担の抑制を計画。

【名称】「グリーンインフラに係る山辺交流拠点施設(仮称)」
(Yamabe hiro-Ba)

【必須機能】屋内集会スペース(会議室・研修室)、観光案内(アクティビティ等)・休憩機能、子どものあそび場、里山・森林づくりに関する啓発

【整備を検討している機能】飲食、物販・レンタル、コワーキングスペース、プログラム提供 等

事業化に向けて解決すべき課題及び検討すべき内容

- ・SPC設立費などのコストや、民間事業者の参加意向、ファイナンス条件なども考慮し事業方式を決定する必要がある。
- ・収益事業は、市より民間事業者が知見を有しているため、幅広い業種を対象に調査を実施し、公募にあたっての条件を整理する。
- ・民間収益事業が、施設整備費や運営費に与える影響を、定量的、定性的に把握して、公費負担や市のリスク軽減が図ることができる事業の種類等を検討する。
- ・市と事業者の最適なリスク分担方法を検討する。
- ・地域プラットフォームなどの活用で、競争性を確保できるか把握する
- ・効率化の側面だけでなく、施設イメージ(デザイン・ランドスケープを含む)に与える影響についても検討を行う。
- ・ソフト事業では地域の意見を把握しながら検討を行う。
- ・SDGsに関する施設の目標(KPI)やモニタリング手法、成果連動型報酬等についても検討を行う。

検討経緯等

- ・令和3、4年度には、市民会議「構想会議」においてターゲットに合わせたソフト事業の検討とプレイヤー育成の実証実験を行った。
- ・令和3年度に国土交通省の先導的グリーンインフラモデル形成支援事業において、グリーンインフラ推進のための現状把握および課題整理のためにぎわいの森の効果測定を実施した。
- ・令和4年度には、国土交通省の先導的グリーンインフラモデル形成支援事業において、本施設を活用した地域活動(スモールビジネス・NPO団体等)を促進するためのファイナンス手法に関するケーススタディを行った。

検討の成果及び調査実施後のスケジュール

【検討の成果】

- ・本事業は、グリーンを活用した団体のブランドイメージ形成や、にぎわい創出のほか、公共施設の効率的な整備・運営といった面で、先行的なモデルとなる可能性がある。
- ・本事業の調査を通じて、PPP/PFIに係るノウハウの蓄積を図る。
- ・屋外空間や周辺空間を活用した所管部局の異なる複合施設の整備を調査することで、今後の市での複合施設化や、統廃合時のモデルとして活用できる。

【調査実施後のスケジュール】

R5度	R6度	R7度～	R9度
7月～3月	4月～3月	4月～	10月
民間資金等活用手 法導入可能性調査	民間事業者の選定(実施 方針等の策定・講評、民間 事業者の募集・選定、契約 等の締結)	施設整備	供用開始

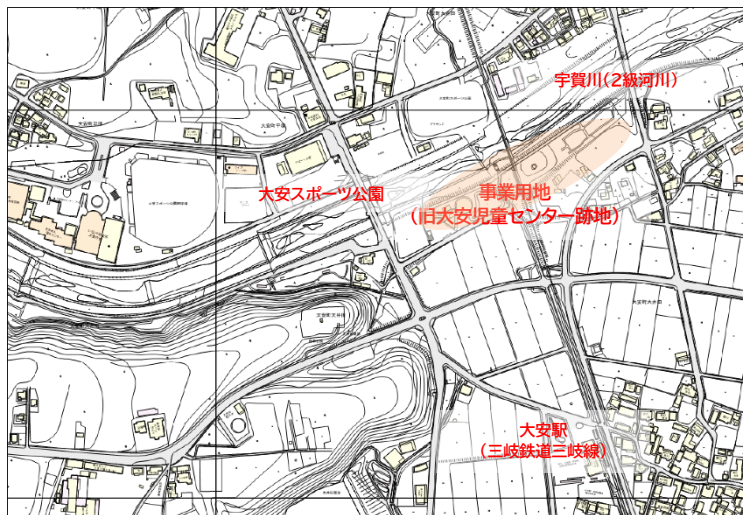
必要経費(補助金要望額)

民間資金等活用手法導入可能性調査委託費 10,340千円
(うち、補助10,340千円)

事業／施設の位置図



【市内での位置】



【整備計画地の位置図】



【現況写真(既存建物等)】

事業計画／検討内容に係る図表



【にぎわいの森】



【里山を活用したプログラムの例】
(令和4年実施:グリーンインフラ関連イベント)



【事業コンセプト図】